

「新しい東北」官民連携推進協議会 平成30年度宮城県意見交換会（第2回）

事務局提出資料

1. 平成30年度活動の方向性

- 「NEW TOHOKU PITCH」の活動を継続することで、復興庁の設置期限を超えて、セクター間の連携により新しい東北をつくるいくつながりを残す契機とする。
- セクター間の連携については、情報・認識の共有を土台に、共通のテーマを解決・達成できるようなソリューションとなるような場づくりを目指し、その可能性をメッセージとして発信する。
- テーマについては復興に留まらず、広く地域の課題をテーマに捉え、各セクターが関わる余地があると望ましい。例として、地元企業の人材確保、移動支援・まちづくり、事業承継、企業誘致など。

2. 今年度のスケジュール

● 第1回（6／7（木））	● 第2回（9／12（水））	● イベント準備期間（9～12月）	● 「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」（12～1月）	● 第3回（3月）
<ul style="list-style-type: none">• 意見交換会の趣旨等説明• 平成29年度活動振り返り• 平成30年度方向性• 平成30年度テーマ案等について意見交換を実施	<ul style="list-style-type: none">• 今年度の方向性• 「新しい東北」官民連携推進協議会 宮城県における連携型交流会の取組内容等について意見交換を実施	<ul style="list-style-type: none">• 「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」開催準備期間		<ul style="list-style-type: none">• 「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」の実施振り返り• 来年度意見交換会等について意見交換を実施

3. 今後に向けた活動イメージの共有

- 事務局の協力のもと、協議会イベントの実施を通じて、今後の連携の深化に向けた検討を行う。

4. 「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」企画（案）

○開催主旨/想定する成果・効果/コンセプトのイメージ

- ・開催趣旨 宮城県沿岸地域における地域課題解決をはかるためのセクター間の連携機会を生む
- ・想定する成果・効果 他のセクターや団体が持つ課題意識やアクションから気づきを得ることで、参加者自身およびその所属組織で、新たに取り組むべきことの連携イメージをつかむ
- ・コンセプトのイメージ セクター間でつながることで地域の大きな課題解決につながる

○実施概要について

概要（案）

- ▼ 時期：12～1月
- ▼ 会場：石巻市を想定
- ▼ プログラム内容

○ 1日目（平日午後16～18時開催、懇親会）

- ・キーノートスピーチ
- ・ピッチプレゼンテーション（5～6名程度）
- ・パネルディスカッション
- ・参加者同士の交流会

○ 2日目（午前）

- ・オプションとしての現地視察等
(石巻市内の協議会会員団体による連携制度活用によるワークショップ開催なども想定)



ピッチのイメージ



関わりあいを宣言する
仕掛け(LIKEorJOIN)のイメージ

5. 検討事項

- 次年度に向けた活動イメージについて
- 「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」の実施内容（対象とする地域と分野、コンセプト等）
- 今年度目指す成果の設定について（何が達成できればよいか）

ひとりの人を、社会の様々な困難が取り囲む

課題 欲求	育児に追われて辛い 仕事に出られない	親の介護が心配 自分で手に負えない	収入が不安 稼ぐ手段がほしい	社会での役割が硬直化 自分らしい生き方をしたい	暮らしと仕事の両立が困難 雇用を守ってほしい
支援 領域	子育て支援	介護支援	就労支援／創業支援	創業支援／ コミュニティ支援	職場改善／雇用維持
セクター メニュー	行政/NPO/事業者 (育児サポート)	行政/NPO/介護事業者 (ケア・サポート)	商工会議所(創業塾) 行政(就業カウンセリング) 行政(雇用助成)	NPO(コミュニティ形成) 行政(チャレンジショップ) 大手企業(女性活躍やSDGs関連CSR)	地元企業 (働き方改革・人材育成・採用)
支援 対象例	子どもと本人 	高齢者・障害者 	本人・地元企業 	本人・地元企業 	本人

暮らしと社会との関わりが困難な状況を解消するには？



他のセクターの課題意識やアクションを俯瞰することで気づくこと

生活と仕事の両立に悩む人 独立志向の強い若者の情報を働き方改革のニーズとして企業に伝えられるかも知れない

社員の家族のケアをNPOに任せることで、働きやすい職場づくりが実現できるかも知れない

起業志望の人材を事業パートナーとして育成すれば、事業承継の候補になるかも知れない



【Before】自分たちに共感を寄せて一方的にお金や人で支援してくれる相手

【After】共通のアジェンダに別な角度からアプローチをしている連携相手

テーマ例：若者の成長と活躍を支える社会

課題 欲求	親の理解不足 家庭環境の不安定さ	成績順の求人応募 選ばなければ 大学に入れる	やりたい仕事がない 仕事の種類が少ない 給料が低い	地域を・仕事を もっと知りたい	年齢の近い先輩社員がない 教育研修制度がない
支援 領域	保護者への理解醸成 子どもの居場所づくり	学校現場における進路指導 意思決定を促す仕組みづくり	キャリア形成支援	キャリア形成支援／ 採用支援	職場環境整備・制度設計/ 雇用維持

テーマ例：高齢者になっても不安を抱え込まずに暮らし続けられる社会

課題 欲求	買い物に行けない 移動が困難	生きがいが見つからない	居場所がない	働き続ける環境が 見つからない	健康維持
支援 領域	移動支援／ 宅食サービス 等	コミュニティ形成支援／ 運動教室	コミュニティ形成支援／ 居場所づくり	就労支援／シニア雇用	運動教室／地域医療連携

※その他のテーマとして以下

- ▼地域の仕事づくり
- ▼にぎわい再生
- ▼子育て環境づくり（子ども食堂、不登校支援、就労支援、等）